

千両小校長室だより



令和3年度
No.8

1年を締めくくる

行事や学習にがんばった2学期だったのではないのでしょうか。自分として、一番がんばったことは何でしょうか。「漢字がたくさん書けるようになりました」「いろんな仕事のことを取材できたよ」など…。2学期と同様に、冬休みにも、がんばってほしいことがあります。お家の手伝いです。家族と相談して、自分の役割として、何か一つでよいので、決めるとよいですね。そして、決めただけでなく、周りの様子を見て、「これをしたら助かるだろうな」ということを、どんどんすると、すてきな天国のようになれるそうですね。

エコキャップアート

1階の「みんなのトイレ」前に、2・3組さんが製作したエコキャップアートが展示されました。アップで見ると、いろいろなペットボトルのキャップが、きれいに貼られているのがわかります。コツコツと丁寧に貼られた作品であること、足りなかった黄色のキャップの呼びかけに、多くの家庭で協力してくださったことなど、ステキなことがありました。千両小学校では、「エコキャップ運動」を行っており、これはペットボトル本体やラベルが回収されるのに、キャップだけが資源として生かされていないことを疑問に思った神奈川県的女子高生が声を上げたことから始まったそうです。集められたキャップは、リサイクルの原料となり、その収益は、ユニセフに寄付されたり、被災地区支援などに使われています。今後も、ご協力をお願いいたします。



「天国と地獄」

じんけんしゅうかい
～人権集会より～

12月4日～10日の「人権週間」に先駆けて、児童会と読書おもしろ委員会主催で、人権集会を行いました。

児童会から、「人権＝人の権利」「一人一人が大切にされて、幸せに生きること」等、話があった後、読書おもしろ委員会から、どんなことをすればいいのか考えるヒントとして、絵本の読み聞かせを行いました。絵本のタイトルは、「もったいないばあさんの てんごくとじごくのはなし」(講談社)です。



絵本の読み聞かせ

絵本で語られていることは、もともとの原典は不明ではっきりせず、民話や仏陀の説話とも言われた話を分かりやすく、伝えている内容でした。古くは、TVドラマ「金八先生」でも語られた「天国と地獄」のたとえ話です。

天国も地獄もどちらにも同じように、向かい合って座っているナベの中には「おいしそうなごちそう」がたっぷり入っています。そして、地獄と天国どちらにも、「共通のルール」がありました。それは、「とても長いスプーンで食べなければならない」ということでした。

地獄の食事の様子は、「一生懸命食べようとする姿」が見られます。ただ、スプーンが長いので「自分の口の中」に中々入りません。それどころか、「周りの人をつついてしまう」ことになっていきます。いたるところで「ケンカ」が絶えない状況でした。

一方、天国では、「みんな穏やかに食事」をしています。同じ長いスプーンをつかっているに、なぜでしょうか？ 見てみると「みんな向かいの人の口にごちそうを運んでいる」姿が見えます。「どうぞ」「ありがとう」と声をかけながら、お互いに笑顔で向かい合っている人に食べさせていました。地獄には「自分のことばかり考える人」しかいない。しかし、天国は「自分と相手のことを考える人」の集まりだったのです。

同じ環境でも、周りの人に「与える」「協力する」ことができるかどうかで、天国にも地獄にもなるんですね。また、「いろいろな力に助けられて、私達は生活ができています」ということことも分かるような読み聞かせでした。

